

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R3.6/28(月)～R3.7/4(日) 令和3年第26週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ 指標 ^{※3}	ステージⅣ ^{※3} 指標
陽性者数	① 合計	349人	339人	-	-
	② 対人口10万人	22.7人	22.0人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	1.03	1.11	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		66%	63%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率（%）		9.8%	10.2%	5%以上	10%以上

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※3} 指標	ステージⅣ ^{※3} 指標
<報告日>		7/4現在	6/27現在	-	-
⑥ 入院患者 ^{※1} (陽性確定例)	入院中の患者数	70人	76人	-	-
	確保病床数	284床	284床	-	-
	病床使用率	24.6%	26.8%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 ^{※1} (陽性確定例)	入院中の患者数	11人	14人	-	-
	確保病床数	30床	30床	-	-
	病床使用率	36.7%	46.7%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	476人	389人	-	-
	⑨ 対人口10万人	30.9人	25.3人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※3} 指標	ステージⅣ ^{※3} 指標
<報告日>	7/4現在	6/27現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※2} （%） ＝入院中の患者÷療養者数（陽性確定例）	14.7%	19.5%	40%以下	25%以下

※1 入院患者及び重症患者並びにその病床数は、令和3年5月4日公表分から、「疑似症患者を含む」から「陽性確定例」に変更して公表

※2 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院優先度判定スコア等を用いて入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

※3 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

<変異ウイルス検出状況>

(1) スクリーニング検査（変異ウイルスの検出状況）

ア N501Y スクリーニング検査

		直近1週間 6/28 ~ 7/4	前週 6/21 ~ 6/27	累計 3/11 ~ 7/4
川崎市健康安全研究所	検査実施数	31件	40件	942件
	検出数	28件	36件	671件
	検出率	90.3%	90.0%	71.2%
民間検査機関等 ^{※4}	検出数	1件	9件	414件

イ L452R スクリーニング検査

		直近1週間 6/28 ~ 7/4	前週 6/21 ~ 6/27	累計 3/11 ~ 7/4
川崎市健康安全研究所	検査実施数	2件	1件	22件
	検出数	2件	1件	13件
	検出率	100.0%	100.0%	59.1%
民間検査機関等 ^{※4}	検出数	4件	2件	6件

(2) ゲノム解析等^{※5}（変異ウイルスの鑑別状況）

	直近1週間 6/28 ~ 7/4	前週 6/21 ~ 6/27	累計 3/11 ~ 7/4
α株（アルファ）：英国株 ^{※6}	0件	0件	185件
β株（ベータ）：南アフリカ株 ^{※6}	0件	0件	0件
γ株（ガンマ）：ブラジル株 ^{※6}	0件	0件	0件
δ株（デルタ）：インド株 ^{※6}	0件	0件	8件

※4 民間検査機関等による検査実施数は不明のため、検出数のみ掲載

※5 ゲノム解析は、国立感染症研究所で実施しており、検査結果は不定期で報告されている。

<評価>

令和3(2021)年6月28日(月)～7月4日(日)(令和3年第26週)の川崎市市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況は、以下のとおりです。

<感染の状況:直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、第1週(1月4日～10日)の1123人をピークとし、第9週120人まで減少。その後再び増加し、第20週(5月17日～23日)は502人まで増加しましたが、これをピークに第21週378人、第22週348人と減少。第23週は349人と一時減少が留まりましたが、第24週は305人と再び減少しました。しかし、第25週(前週)は339人と再び増加がみられ、第26週(今週)は349人と微増しています。
- ② 対人口10万人あたりの累積新規陽性者数も、第1週の73.40人をピークとして第9週7.84人まで減少。その後再び増加し、第20週(5月17日～23日)32.8人まで増加しましたが、これをピークに第21週24.5人、第22週22.6人と減少。第23週は22.7人と減少が留まりましたが、第24週は19.8人と減少しました。しかし、第25週(前週)は22.0人と再び増加がみられ、第26週(今週)は22.7人と微増しています。ステージ分類ではステージⅢ(15人以上)にとどまっております、6週連続してステージⅢを維持しています。
- ③ 前週との増加比も、第1週(1月4日～10日)の2.08をピークに、第9週0.82まで減少、その後4週間は大きな変動がなく経過しました。第16週以降は1.0前後、第21週0.75、第22週0.92、第23週1.00から第24週は0.87と減少しましたが、第25週(前週)は1.11と増加し、第26週(今週)は、1.03とやや減少しました。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第9週までは40%前後でしたが、第10週から第19週は46～66%を変動し、第20週以降は51%、52%、57%、57%、第24週は64%、そして第25週(前週)は63%と停滞し、第26週(今週)は66%と微増し、ステージ分類では9週連続してステージⅢ・Ⅳ相当(50%以上)となっています。
- ⑤ 検査陽性率は、第9週3.32%～第14週6.97%と6週間連続して微増。第17週より第20週までステージⅣ相当が4週間連続しました。第21週は9.7%とステージⅣの基準(10%以上)をわずかに下回りステージⅢ相当。第22週は10.0%でステージⅣ相当となりましたが、第23週8.7%、第24週は8.1%と2週間連続してステージⅢ相当となりました。第25週(前週)は10.2%と再びステージⅣ相当となりましたが、第26週(今週)は9.8%と微減となりステージⅢとなり、このところ10.0%を挟んでステージⅢ、Ⅳを繰り返しています。

<医療提供体制等の負荷:報告日7.4現在>

- ⑥ 入院中の患者数は第16週より、93人→90人→86人→75人と減少しましたが、第20週より再び増加。翌第21週(5月24日～30日)108人をピークとし、その後は第22週90人、第23週75人、第24週69人と3週連続して減少が続きました。第25週(前週)は76人と再び増加しましたが、第26週(今週)は70人とやや減少しました。
病床使用率は確保病床241床のうち第21週(5月24日～30日)44.8%をピークに、第22週37.3%、第23週31.1%、第24週(28.6%)減少しました。第25週に入院患者数は増加したものの確保病床数がこれまでの241床から284床に増加したことにより、病床使用率は26.8%と第24週よりやや減少し、第26週(今週)は24.6%と減少が続き、記録を開始した第17週以降これまで10週連続してステージⅢ相当(20%以上)のままとなっています。
- ⑦ 重症患者数は第16週より、13人→11人→12人→11人と大きい変動はありませんでした。第20週より16人→24人→23人から、第23週・第24週は12人と減少、第25週(前週)は14人とやや増加しましたが、第26週(今週)は11人と再び減少しました。
重症者の病床使用率は確保病床30床のうち、第20週53.3%、第21週80.0%、第22週76.7%と3

週連続してステージⅣ相当（50%以上）でしたが、第23週・第24週は40.0%、第25週（前週）は46.7%と増加したものの、第26週（今週）は36.7%と減少、ステージⅢを4週間維持しています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第20週（5月17日～23日）843人をピークとして、第21週より672人、513人、485人、446人、第25週（前週）389人と5週連続して減少が続きましたが、第26週（今週）は476人と増加しました。
- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人は、第20週（5月17日～23日）の55.1人をピークに、第21週より43.6人、33.3人、31.5人、29.0人、第25週（前週）25.3人と5週連続して減少し9週連続してステージⅢ相当（20人以上）となっていました。第26週（今週）は30.9人と増加し、ステージⅣ相当（30人以上）となりました。

<変異ウイルス検出状況>

N501Y株スクリーニングについては、川崎市健康安全研究所での検出率は第24週95.7%、第25週（前週）90.0%、第26週（今週）90.3%と高くなっています。L425R株スクリーニングは川崎市健康安全研究所では第24週は3件、第25週（前週）は1件、第26週（今週）は2件でした。なお民間検査機関からは第26週（今週）は4件検出されています。第26週は、詳細なゲノム解析によって新たなアルファ株（ α ：英国株）、ベータ株（ β ：南アフリカ株）、ガンマ株（ γ ：ブラジル株）、デルタ株（ δ ：インド株）と判明したものはなく、これまでの累計は、アルファ株185件、ベータ株0件、ガンマ株0件、デルタ株8件となっています。

7月4日現在、緊急事態宣言は沖縄県1県（7月11日まで）。まん延防止重点措置地域は、緊急事態宣言よりまん延防止重点措置地域に変更（7月11日まで）となった東京都・京都府・大阪府・兵庫県・愛知県・福岡県・北海道の7都道府県、およびまん延防止重点措置が延長（同じく7月11日まで）となった埼玉県・千葉県・神奈川県の3県の計10都道府県となっています。

神奈川県では、川崎市・横浜市・相模原市・厚木市・座間市・小田原市がまん延防止重点措置区域となっています。

本市におきましては、第20～21週あたりをピークに新規陽性者数は第24週まで減少しましたが、第25週（前週）は再び増加し、第26週（今週）は微増となっています。

入院患者数・重症患者数は、第20週、第21週にかけて増加し、第22週より減少に転じ、第25週（前週）はやや増となりましたが、第26週（今週）はやや減少。前週からの入院確保病床数の増加から病床使用率はステージⅢを維持し、重症患者病床利用率もステージⅢとなっており、目下のところの医療提供体制はやや落ち着いた状態であると言えます。新規陽性者数が減じてくれば本市における医療提供体制は余裕のある状態が維持できますが、早いペースで増加が生じてしまうと医療提供体制は悪化するので、やや増加傾向の見られる現在、引き続き十分な注意と警戒が必要です。

ステージ分類の指標となっている6項目（参考数値を除く）のうち、⑤の陽性率がステージⅣからステージⅢ、⑨の療養者数の対人口10万人がステージⅢからステージⅣとなったため、全体としてはステージⅣが2項目、ステージⅢ相当については4項目と変化はありませんでした。医療提供体制等への負荷はやや落ち着いているものの、陽性者数はやや増加傾向となっています。再び多くがステージⅣ相当にならぬよう（大きいリバウンドにならないよう）、ステージⅢはステージⅡとなるよう、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

人の動き（人流）の増加と感染症の増加はつきものです。本市のまん延防止措置は延長となり、大

変なご不便、ご迷惑をおかけしておりますが、その効果は確実に表われます。一方、屋外での運動や散歩などは、健康の維持のためにも必要です。また、どちらかへお出かけになる時には、やはり感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数で過ごされますようお願いいたします。三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時はマスクをつける、換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、飲食の場あるいは日常生活において、感染の拡大を予防するための基本的なかつ重要な注意点であり、これまでのウイルスであっても変異型のウイルスであっても共通の、また有効な予防対策法です。

一方、関東地方は梅雨入りとなり、激しい雨の日や蒸し暑い日も出てきています。暑さ対策、水分の補給、場所に応じたマスクの使い分けもお忘れないようお願いいたします。

本市におきましても、新型コロナワクチンの接種が進み、市内において1回目接種を済ませた方が約21.4万人、2回目接種が約7.3万人となっています(6月29日公表分まで)。集団での接種会場も多くなり、医療機関での個別の接種も始まりました。焦ることなく、落ち着いてワクチン接種を受けられますようお願い申し上げます。